



Smart Call Home の設定

この章は、次の内容で構成されています。

- [Smart Call Home に関する情報, 1 ページ](#)
- [Smart Call Home の注意事項および制約事項, 11 ページ](#)
- [Smart Call Home の前提条件, 11 ページ](#)
- [Call Home のデフォルト設定, 12 ページ](#)
- [Smart Call Home の設定, 12 ページ](#)
- [Smart Call Home 設定の確認, 24 ページ](#)
- [フルテキスト形式での syslog アラート通知の例, 25 ページ](#)
- [XML 形式の Syslog アラート通知の例, 25 ページ](#)

Smart Call Home に関する情報

Smart Call Home は電子メールを使用して、重要なシステム イベントを通知します。Cisco Nexus シリーズ スイッチは、幅広いメッセージフォーマットを提供し、ポケットベルサービス、標準電子メール、または XML ベースの自動解析アプリケーションと最適な互換性を保てます。この機能を使用して、ネットワーク サポート エンジニアや Network Operations Center を呼び出せます。また、Cisco Smart Call Home サービスを使用して、TAC でケースを自動的に生成することもできます。

シスコと直接サービス契約を結んでいる場合は、Smart Call Home サービス用にデバイスを登録できます。Smart Call Home では、お使いのデバイスから送信された Smart Call Home メッセージを分析し、背景説明と推奨事項を提供することによって、システムの問題をすばやく解決できます。既知と特定できる問題、特に GOLD 診断エラーについては、シスコ TAC (Technical Assistance Center) によって自動サービス リクエストが生成されます。

Smart Call Home には、次の機能があります。

- 継続的なデバイス ヘルス モニタリングとリアルタイムの診断アラート

- ご使用のデバイスからの Smart Call Home メッセージの分析と、必要に応じた自動サービスリクエストの生成は、問題を迅速に解決するための詳細な診断情報とともに、適切な TAC チームにルーティングされます。
- お使いのデバイスから直接、またはダウンロード可能な Transport Gateway (TG; 転送ゲートウェイ) 集約ポイントを介して転送されたメッセージのセキュリティ保護。複数のデバイスでサポートを必要としている場合、またはセキュリティ要件の関係でご使用のデバイスをインターネットに直接接続できない場合は、TG 集約ポイントを使用できます。
- すべての Smart Call Home デバイスの Smart Call Home メッセージおよび推奨事項、インベントリおよび設定情報への Web ベースのアクセス、および現場の注意事項、セキュリティ勧告、および廃止情報。

Smart Call Home の概要

Smart Call Home を使用すると、重要なイベントがデバイスで発生した場合に外部エンティティに通知できます。Smart Call Home では、ユーザが宛先プロファイルに設定する複数の受信者にアラートが配信されます。

Smart Call Home には、スイッチで事前に定義された一連のアラートが含まれます。これらのアラートはアラートグループにグループ化され、アラートグループのアラートが発生したときに実行する CLI コマンドが割り当てられています。スイッチには、転送された Smart Call Home メッセージのコマンド出力が含まれます。

Smart Call Home 機能は、次のとおりです。

- 関連する CLI コマンド出力の実行および添付が自動化されます。
- 次のような、複数のメッセージフォーマットオプションがあります。
 - ショートテキスト：ポケットベルまたは印刷形式のレポートに最適。
 - フルテキスト：人間が判読しやすいように完全にフォーマットされたメッセージ情報です。
 - XML：Extensible Markup Language (XML) および Adaptive Messaging Language (AML) XML スキーマ定義 (XSD) を使用した、判読可能なフォーマットです。XML 形式では、シスコ TAC と通信できます。
- 複数の同時メッセージの宛先 それぞれの宛先プロファイルには、最大 50 個の電子メール宛先アドレスを設定できます。

Smart Call Home の宛先プロファイル

Smart Call Home 宛先プロファイルには、次の情報が含まれます。

- 1 つまたは複数のアラートグループ：アラートの発生時に、特定の Smart Call Home メッセージを送信するアラートのグループ。

- 1つまたは複数の電子メール宛先：この宛先プロファイルに割り当てられたアラートグループによって生成された Smart Call Home メッセージの受信者リスト。
- メッセージフォーマット：Smart Call Home メッセージのフォーマット（ショートテキスト、フルテキスト、または XML）。
- メッセージ重大度：スイッチが宛先プロファイル内のすべての電子メールアドレスに対して Smart Call Home メッセージを生成するまで、アラートが満たす必要がある Smart Call Home 重大度。アラートの Smart Call Home 重大度が、宛先プロファイルに設定されたメッセージ重大度よりも低い場合、スイッチはアラートを生成しません。

定期メッセージを日別、週別、月別で送信するインベントリアラートグループを使用して、定期的なインベントリアップデートメッセージを許可するよう宛先プロファイルを設定することもできます。

Cisco Nexus スイッチは、次の定義済み宛先プロファイルをサポートします。

- CiscoTAC-1：XML メッセージフォーマットの Cisco-TAC アラートグループをサポートします。
- full-text-destination：フルテキストメッセージフォーマットをサポートします。
- short-text-destination：ショートテキストメッセージフォーマットをサポートします。

Smart Call Home のアラートグループ

アラートグループは、すべての Cisco Nexus 3000 シリーズ スイッチでサポートされる Smart Call Home アラートの定義済みサブセットです。アラートグループ機能を使用すると、定義済みまたはカスタム宛先プロファイルに送信する一連の Smart Call Home アラートを選択できます。Smart Call Home アラートが宛先プロファイルに関連付けられたいずれかのアラートグループに属する場合、およびアラートで、Smart Call Home メッセージ重大度が宛先プロファイルに設定されているメッセージ重大度と同じか、それ以上である場合のみ、Smart Call Home アラートは宛先プロファイルの電子メールの宛先に送信されます。

次の表に、サポートされるアラートグループと、アラートグループ用に生成された Smart Call Home メッセージに含まれるデフォルトの CLI コマンド出力を示します。

表 1：アラートグループおよび実行されるコマンド

アラートグループ	説明	実行されるコマンド
Cisco-TAC	Smart Call Home 宛ての、他のアラートグループからのすべてのクリティカルアラート	アラートを発信するアラートグループに基づいてコマンドを実行します。

アラートグループ	説明	実行されるコマンド
Diagnostic	診断によって生成されたイベント	show diagnostic result module all detail show moduleshow version show tech-support platform callhome
Supervisor hardware	スーパーバイザ モジュールに関連するイベント	show diagnostic result module all detail show moduleshow version show tech-support platform callhome
Linecard hardware	標準またはインテリジェント スイッチング モジュールに関連するイベント	show diagnostic result module all detail show moduleshow version show tech-support platform callhome
Configuration	設定に関連した定期的なイベント	show version show module show running-config all show startup-config
System	装置の動作に必要なソフトウェア システムの障害によって生成されたイベント	show system redundancy status show tech-support
Environmental	電源、ファン、および温度アラームなどの環境検知要素に関連するイベント	show environment show logging last 1000 show module show version show tech-support platform callhome
Inventory	装置がコールドブートした場合、または FRU の取り付けまたは取り外しを行った場合に示されるインベントリ ステータス。このアラートは重要でないイベントであり、情報はステータスおよび使用権に使用されます。	show module show version show license usage show inventory show sprom all show system uptime

Smart Call Home は、syslog ポート グループ メッセージの対応する Smart Call Home の重大度に syslog の重大度をマッピングします。

特定のイベントが発生し、Smart Call Home メッセージを含む **show** 出力を送信した場合に、追加の CLI **show** コマンドを実行するために、定義済みのアラートグループをカスタマイズできます。

show コマンドは、フルテキストおよび XML 宛先プロファイルにのみ追加できます。ショートテキスト宛先プロファイルは、128 バイトのテキストに制限されているため、追加の **show** コマンドをサポートしていません。

Smart Call Home のメッセージ レベル

Smart Call Home を使用すると、緊急度に基づいてメッセージをフィルタリングできます。各宛先プロファイル（定義済みおよびユーザ定義）を、Smart Call Home メッセージレベルしきい値に関連付けることができます。宛先プロファイルのこのしきい値よりも小さな値を持つ Smart Call Home メッセージは、生成されません。Smart Call Home メッセージレベルの範囲は 0（緊急度が最小）～9（緊急度が最大）です。デフォルトは 0 です（スイッチはすべてのメッセージを送信します）。

syslog アラート グループに送信される Smart Call Home メッセージでは、syslog の重大度が Smart Call Home のメッセージ レベルにマッピングされます。



(注) Smart Call Home は、メッセージテキストで syslog メッセージ レベルを変更しません。

次の表に、各 Smart Call Home メッセージ レベルのキーワードと、syslog ポート アラート グループの対応する syslog レベルを示します。

表 2: 重大度と *Syslog* レベルのマッピング

Smart Call Home レベル	Keyword	Syslog レベル	説明
9	Catastrophic	該当なし	ネットワーク全体に壊滅的な障害が発生しています。
8	Disaster	該当なし	ネットワークに重大な影響が及びます。
7	Fatal	緊急 (0)	システムを使用できません。
6	Critical	アラート (1)	クリティカルな状況で、すぐに対応する必要があります。
5	Major	クリティカル (2)	重大な状態。

Smart Call Home レベル	Keyword	Syslog レベル	説明
4	Minor	エラー (3)	軽微な状態。
3	Warning	警告 (4)	警告状態です。
2	Notification	通知 (5)	基本的な通知および情報メッセージです。他と関係しない、重要性の低い障害です。
1	Normal	情報 (6)	標準状態に戻ることを示す標準イベントです。
0	Debugging	デバッグ (7)	デバッグメッセージです。

Call Home のメッセージ形式

Call Home では、次のメッセージフォーマットがサポートされます。

- ショートテキストメッセージフォーマット
- すべてのフルテキストと XML メッセージに共通のフィールド
- 対処的または予防的イベントメッセージに挿入されるフィールド
- インベントリ イベントメッセージの挿入フィールド
- ユーザが作成したテストメッセージの挿入フィールド

次の表に、すべてのメッセージタイプのショートテキスト書式設定オプションを示します。

表 3: ショートテキストメッセージフォーマット

データ項目	説明
Device identification	設定されたデバイス名
Date/time stamp	起動イベントのタイムスタンプ
Error isolation message	起動イベントの簡単な説明 (英語)
Alarm urgency level	システムメッセージに適用されるようなエラーレベル

次の表に、フルテキストまたは XML の共通するイベントメッセージ形式について説明します。

表 4: すべてのフルテキストと XML メッセージに共通のフィールド

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
Time stamp	ISO 時刻通知でのイベントの日付/タイムスタンプ YYYY-MM-DD HH:MM:SS GMT+HH:MM	/aml/header/time
Message name	メッセージの名前。特定のイベント名は上記の表に記載。	/aml/header/name
Message type	リアクティブまたはプロアクティブなどのメッセージタイプの名前	/aml/header/type
Message group	Syslog などのアラートグループの名前	/aml/header/group
Severity level	メッセージの重大度。	/aml/header/level
Source ID	ルーティングのための製品タイプ。	/aml/header/source
Device ID	メッセージを生成したエンドデバイスの固有デバイス識別情報（UDI）。メッセージがデバイスに対して固有でない場合は、このフィールドを空にする必要があります。形式は、 <i>type@Sid@serial</i> 。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。 • <i>@</i> は区切り文字。 • <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーシシリアル番号として特定します。 • <i>serial</i> は、[Sid] フィールドによって特定される数字。 例：WS-C6509@C@12345678	/aml/ header/deviceID

データ項目 (プレーンテキストおよびXML)	説明 (プレーンテキストおよびXML)	XML タグ (XML のみ)
Customer ID	サポートサービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。	/aml/ header/customerID
Contract ID	サポートサービスによって契約情報やその他の ID に使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。	/aml/ header /contractID
Site ID	シスコが提供したサイト ID または別のサポート サービスにとって意味のあるその他のデータに使用されるオプションのユーザ設定可能なフィールド。	/aml/ header/siteID
Server ID	<p>デバイスからメッセージが生成された場合、これはデバイスの Unique Device Identifier (UDI) フォーマットです。</p> <p>形式は、<i>type@Sid@serial</i>。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>type</i> は、バックプレーン IDPROM からの製品の型番。 • <i>@</i> は区切り文字。 • <i>Sid</i> は C で、シリアル ID をシャーシシリアル番号として特定します。 • <i>serial</i> は、[Sid] フィールドによって特定される数字。 <p>例 : WS-C6509@C@12345678</p>	/aml/header/serverID
Message description	エラーを説明するショートテキスト	/aml/body/msgDesc
Device name	イベントが発生したノード (デバイスのホスト名)	/aml/body/sysName

データ項目（プレーンテキストおよびXML）	説明（プレーンテキストおよびXML）	XML タグ（XML のみ）
Contact name	イベントが発生したノード関連の問題について問い合わせる担当者名	/aml/body/sysContact
Contact e-mail	この装置の担当者の電子メールアドレス	/aml/body/sysContactEmail
Contact phone number	このユニットの連絡先である人物の電話番号。	/aml/body/sysContactPhoneNumber
Street address	この装置関連の Return Materials Authorization (RMA; 返品許可) 部品の送付先住所を保存するオプションフィールド	/aml/body/sysStreetAddress
Model name	デバイスのモデル名（製品ファミリー名に含まれる具体的なモデル）	/aml/body/chassis/name
Serial number	ユニットのシャーシのシリアル番号。	/aml/body/chassis/serialNo
Chassis part number	シャーシの最上アセンブリ番号。	/aml/body/chassis/partNo
特定のアラート グループ メッセージの固有のフィールドは、ここに挿入されます。		
このアラート グループに対して複数の CLI コマンドが実行されると、次のフィールドが繰り返される場合があります。		
Command output name	実行された CLI コマンドの正確な名前	/aml/attachments/attachment/name
Attachment type	特定のコマンド出力	/aml/attachments/attachment/type
MIME type	プレーンテキストまたは符号化タイプ	/aml/attachments/attachment/mime
Command output text	自動的に実行されるコマンドの出力。	/aml/attachments/attachment/atdata

次の表に、フルテキストまたはXMLのリアクティブイベントメッセージ形式について説明します。

表 5: 対処的または予防的イベントメッセージに挿入されるフィールド

データ項目 (プレーンテキストおよびXML)	説明 (プレーンテキストおよびXML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェアバージョン。	/aml/body/chassis/hwVersion
Supervisor module software version	最上レベルのソフトウェアバージョン。	/aml/body/chassis/swVersion
Affected FRU name	イベントメッセージを生成する関連FRUの名前	/aml/body/fru/name
Affected FRU serial number	関連FRUのシリアル番号	/aml/body/fru/serialNo
Affected FRU part number	関連FRUの部品番号	/aml/body/fru/partNo
FRU slot	イベントメッセージを生成するFRUのスロット番号	/aml/body/fru/slot
FRU hardware version	関連FRUのハードウェアバージョン	/aml/body/fru/hwVersion
FRU software version	関連FRUで稼働しているソフトウェアバージョン	/aml/body/fru/swVersion

次の表に、フルテキストまたはXMLのコンポーネントイベントメッセージ形式について説明します。

表 6: インベントリイベントメッセージの挿入フィールド

データ項目 (プレーンテキストおよびXML)	説明 (プレーンテキストおよびXML)	XML タグ (XML のみ)
Chassis hardware version	シャーシのハードウェアバージョン	/aml/body/chassis/hwVersion
Supervisor module software version	最上レベルのソフトウェアバージョン。	/aml/body/chassis/swVersion
FRU name	イベントメッセージを生成する関連FRUの名前	/aml/body/fru/name

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
FRU s/n	FRU のシリアル番号	/aml/body/fru/serialNo
FRU part number	FRU の部品番号	/aml/body/fru/partNo
FRU slot	FRU のスロット番号	/aml/body/fru/slot
FRU hardware version	FRU のハードウェアバージョン	/aml/body/fru/hwVersion
FRU software version	FRU で稼働しているソフトウェアバージョン	/aml/body/fru/swVersion

次の表に、フルテキストまたは XML のユーザが作成したテストメッセージ形式を示します。

表 7: ユーザが作成したテストメッセージの挿入フィールド

データ項目（プレーンテキストおよび XML）	説明（プレーンテキストおよび XML）	XML タグ（XML のみ）
Process ID	固有のプロセス ID。	/aml/body/process/id
Process state	プロセスの状態（実行中、中止など）。	/aml/body/process/processState
Process exception	原因コードの例外。	/aml/body/process/exception

Smart Call Home の注意事項および制約事項

- IP 接続がない場合、またはプロファイル宛先への仮想ルーティングおよび転送（VRF）インスタンスのインターフェイスがダウン状態である場合、スイッチは Smart Call Home メッセージを送信できません。
- 任意の SMTP 電子メール サーバで動作します。

Smart Call Home の前提条件

- 電子メール サーバの接続。
- 担当者名（SNMP サーバの担当者）、電話番号、および住所情報へのアクセス。

- スイッチと電子メール サーバ間の IP 接続。
- 設定するデバイス用の有効なサービス契約。

Call Home のデフォルト設定

表 8: デフォルトの *Call Home* パラメータ

パラメータ	デフォルト
フルテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	4000000
XML フォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	4000000
ショートテキストフォーマットで送信するメッセージの宛先メッセージサイズ	4000
ポートを指定しなかった場合の SMTP サーバポート	25
プロファイルとアラート グループの関連付け	フルテキスト宛先プロファイルおよびショートテキスト宛先プロファイルの場合はすべて。 CiscoTAC-1 宛先プロファイルの場合は cisco-tac アラート グループ
フォーマット タイプ	XML
Call Home のメッセージ レベル	0 (ゼロ)

Smart Call Home の設定

Smart Call Home のための登録

はじめる前に

- ご使用のスイッチの SMARTnet 契約番号
- 電子メールアドレス
- Cisco.com ID

手順

- ステップ 1** ブラウザで、Smart Call Home の Web ページに移動します。
<http://www.cisco.com/go/smartcall/>
- ステップ 2** 「Getting Started」で、Smart Call Home を登録するための指示に従ってください。

次の作業

連絡先情報を設定します。

担当者情報の設定

Smart Call Home には、電子メール、電話番号、住所の各情報を指定する必要があります。契約 ID、カスタマー ID、サイト ID、およびスイッチ プライオリティ情報を任意で指定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# snmp-server contact sys-contact	SNMP sysContact を設定します。
ステップ 3	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	switch(config-callhome)# email-contact email-address	スイッチの担当者の電子メールアドレスを設定します。 <i>email-address</i> には、電子メールアドレスの形式で最大 255 の英数字を使用できます。 (注) 任意の有効な電子メールアドレスを使用できます。アドレスには、空白を含めることはできません。
ステップ 5	switch(config-callhome)# phone-contact international-phone-number	デバイスの担当者の電話番号を国際電話フォーマットで設定します。 <i>international-phone-number</i> は、最大 17 文字の英数字で、国際電話番号の形式にする必要があります。 (注) 電話番号には、空白を含めることはできません。番号の前にプラス (+) 記号を使用します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	switch(config-callhome)# streetaddress <i>address</i>	スイッチの主担当者の住所を設定します。 <i>address</i> には 255 文字以内の英数字を使用できます。 スペースを使用できます。
ステップ 7	switch(config-callhome)# contract-id <i>contract-number</i>	(任意) サービス契約からこのスイッチの契約番号を設定します。 <i>contract-number</i> には最大 255 文字の英数字を使用できます。
ステップ 8	switch(config-callhome)# customer-id <i>customer-number</i>	(任意) サービス契約からこのスイッチのカスタマー番号を設定します。 <i>customer-number</i> には最大 255 文字の英数字を使用できます。
ステップ 9	switch(config-callhome)# site-id <i>site-number</i>	(任意) このスイッチのサイト番号を設定します。 <i>site-number</i> は、最大 255 文字の英数字を自由なフォーマットで指定できます。
ステップ 10	switch(config-callhome)# switch-priority <i>number</i>	(任意) このスイッチのスイッチプライオリティを設定します。 指定できる範囲は 0 ~ 7 です。0 は最高のプライオリティを、7 は最低のプライオリティを示します。 デフォルトは 7 です。
ステップ 11	switch# show callhome	(任意) Smart Call Home コンフィギュレーションの概要を表示します。
ステップ 12	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、Call Home に関する契約情報を設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# snmp-server contact personname@companyname.com
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# email-contact personname@companyname.com
```

```
switch(config-callhome)# phone-contact +1-800-123-4567
switch(config-callhome)# street-address 123 Anystreet St., Anycity, Anywhere
```

次の作業

宛先プロファイルを作成します。

宛先プロファイルの作成

ユーザ定義の宛先プロファイルを作成し、新しい宛先プロファイルにメッセージフォーマットを設定する必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# destination-profile {ciscoTAC-1 {alert-group group email-addr address http URL transport-method {email http}} profile-name {alert-group group email-addr address format {XML full-txt short-txt} http URL message-level level message-size size transport-method {email http}} full-txt-destination {alert-group group email-addr address http URL message-level level message-size size transport-method {email http}} short-txt-destination {alert-group group email-addr address http URL message-level level message-size size transport-method {email http}}}	<p>新しい宛先プロファイルを作成し、そのプロファイルのメッセージフォーマットを設定します。プロファイル名は、最大 31 文字の英数字で指定できます。</p> <p>このコマンドの詳細については、使用している Cisco Nexus シリーズ ソフトウェアのコマンドリファレンスを参照してください。Nexus 3000 用の入手可能なコマンドリファレンスは http://www.cisco.com/en/US/products/ps11541/prod_command_reference_list.html にあります。</p>
ステップ 4	switch# show callhome destination-profile [profile name]	<p>(任意)</p> <p>1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。</p>
ステップ 5	switch(config)# copy running-config startup-config	<p>(任意)</p> <p>リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。</p>

次に、Smart Call Home の宛先プロファイルを作成する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 format full-text
```

宛先プロファイルの変更

定義済みまたはユーザ定義の宛先プロファイルの次の属性を変更できます。

- 宛先アドレス：アラートの送信先となる実際のアドレス（トランスポートメカニズムに関係します）。
- メッセージフォーマット：アラート送信に使用されるメッセージフォーマット（フルテキスト、ショートテキスト、または XML）。
- メッセージレベル：この宛先プロファイルの Call Home メッセージの重大度。
- メッセージサイズ：この宛先プロファイルの電子メールアドレスに送信された Call Home メッセージの長さ。



(注) CiscoTAC-1 宛先プロファイルは変更または削除できません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# destination-profile {name full-txt-destination short-txt-destination } email-address	ユーザ定義または定義済みの宛先プロファイルに電子メールアドレスを設定します。宛先プロファイルには、最大 50 個の電子メールアドレスを設定できます。
ステップ 4	destination-profile {name full-txt-destination short-txt-destination } message-level number	この宛先プロファイルの Call Home メッセージの重大度を設定します。Call Home 重大度が一致する、またはそれ以上であるアラートのみが、このプロファイルの宛先に送信されます。number の範囲は 0～9 です。9 は最大の重大度を示します。
ステップ 5	switch(config-callhome)# destination-profile {name full-txt-destination	この宛先プロファイルの最大メッセージサイズを設定します。full-txt-destination の範囲は 0～5000000 であり、デフォルトは 2500000 です。

	コマンドまたはアクション	目的
	short-txt-destination} message-size <i>number</i>	short-txt-destination の範囲は 0 ~ 100000 であり、デフォルトは 4000 です。CiscoTAC-1 での値は 5000000 であり、変更できません。
ステップ 6	switch# show callhome destination-profile [<i>profile name</i>]	(任意) 1 つまたは複数の宛先プロファイルに関する情報を表示します。
ステップ 7	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、Call Home の宛先プロファイルを変更する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination email-addr
person@example.com
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-level 5
switch(config-callhome)# destination-profile full-text-destination message-size 10000
switch(config-callhome)#
```

次の作業

アラートグループを宛先プロファイルに関連付けます。

アラートグループと宛先プロファイルの関連付け

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# destination-profile <i>name</i> alert-group { All Cisco-TAC Configuration Diagnostic Environmental Inventory License Linecard-Hardware	アラートグループをこの宛先プロファイルに関連付けます。キーワード All を使用して、すべてのアラートグループをこの宛先プロファイルに関連付けます。

	コマンドまたはアクション	目的
	Supervisor-Hardware Syslog-group-port System Test}	
ステップ 4	switch# show callhome destination-profile [profile name]	(任意) 1つまたは複数の宛先プロファイルに関する 情報を表示します。
ステップ 5	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィ ギュレーションをスタートアップ コンフィ ギュレーションにコピーして、変更を永続的 に保存します。

次に、すべてのアラートグループを宛先プロファイル Noc101 に関連付ける例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# destination-profile Noc101 alert-group All
switch(config-callhome)#
```

次の作業

任意で show コマンドをアラートグループに追加し、SMTP 電子メール サーバを設定します。

アラートグループへの show コマンドの追加

1つのアラートグループにユーザ定義の CLI show コマンドを5つまで割り当てることができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを 開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーション モード を開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# alert-group {Configuration Diagnostic Environmental Inventory License Linecard-Hardware Supervisor-Hardware	show コマンド出力を、このアラートグループ に送信された Call Home メッセージに追加しま す。有効な show コマンドだけが受け入れられ ます。 (注) CiscoTAC-1 宛先プロファイルには、 ユーザ定義の CLI show コマンドを追 加できません。

	コマンドまたはアクション	目的
	Syslog-group-port System Test} user-def-cmd show-cmd	
ステップ 4	switch# show callhome user-def-cmds	(任意) アラート グループに追加されたすべてのユーザ定義 show コマンドに関する情報を表示します。
ステップ 5	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、**show ip routing** コマンドを Cisco-TAC アラート グループに追加する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# alert-group Configuration user-def-cmd show ip routing
switch(config-callhome)#
```

次の作業

SMTP 電子メール サーバに接続するように Smart Call Home を設定します。

電子メール サーバの詳細の設定

Call Home 機能が動作するよう SMTP サーバアドレスを設定します。送信元および返信先電子メール アドレスも設定できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# transport email smtp-server <i>ip-address</i> [port number] [use-vrf <i>vrf-name</i>]	SMTP サーバを、ドメインネームサーバ (DNS) 名、IPv4 アドレス、または IPv6 アドレスのいずれかとして設定します。 <i>portnumber</i> の範囲は 1 ~ 65535 です。デフォルトのポート番号は 25 です。

	コマンドまたはアクション	目的
		任意で、この SMTP サーバとの通信時に使用するよう VRF を設定できます。
ステップ 4	switch(config-callhome)# transport email from <i>email-address</i>	(任意) Smart Call Home メッセージの送信元電子メールフィールドを設定します。
ステップ 5	switch(config-callhome)# transport email reply-to <i>email-address</i>	(任意) Smart Call Home メッセージの返信先電子メールフィールドを設定します。
ステップ 6	switch# show callhome transport-email	(任意) Smart Call Home の電子メール設定に関する情報を表示します。
ステップ 7	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、Smart Call Home メッセージの電子メール オプションを設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# transport email smtp-server 192.0.2.10 use-vrf Red
switch(config-callhome)# transport email from person@example.com
switch(config-callhome)# transport email reply-to person@example.com
switch(config-callhome)#
```

次の作業

定期的なインベントリ通知を設定します。

定期的なインベントリ通知の設定

デバイス上でイネーブルになっているすべてのソフトウェア サービスおよび実行中のソフトウェア サービスのインベントリに関するメッセージとハードウェアのインベントリ情報を定期的に送信するようにスイッチを設定できます。スイッチは 2 つの Smart Call Home 通知（定期的な設定メッセージと定期的なインベントリ メッセージ）を生成します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome)# periodic-inventory notification [interval <i>days</i>] [timeofday <i>time</i>]	定期的なインベントリ メッセージを設定します。 interval days の範囲は 1 ~ 30 日です。 デフォルトは 7 日です。 timeofday time は HH:MM フォーマットです。
ステップ 4	switch# show callhome	(任意) Smart Call Home に関する情報を表示します。
ステップ 5	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、定期的なインベントリ メッセージを 20 日ごとに生成するよう設定する例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# periodic-inventory notification interval 20
switch(config-callhome)#
```

次の作業

重複メッセージ抑制をディセーブルにします。

重複メッセージの抑制のディセーブル化

同じイベントについて受信する重複メッセージの数を制限できます。デフォルトでは、スイッチは同じイベントについて受信する重複メッセージの数を制限します。2 時間の時間枠内で送信された重複メッセージの数が 30 メッセージを超えると、同じアラートタイプの以降のメッセージは廃棄されます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome) # no duplicate-message throttle	Smart Call Home に対する重複メッセージの抑制をディセーブルにします。 重複メッセージの抑制は、デフォルトでイネーブルになっています。
ステップ 4	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、重複メッセージの抑制をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome) # no duplicate-message throttle
switch(config-callhome) #
```

次の作業

Smart Call Home をイネーブルにします。

Smart Call Home のイネーブル化またはディセーブル化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# callhome	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	switch(config-callhome) # [no] enable	Smart Call Home をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
		Smart Call Home は、デフォルトではディセーブルになっています。
ステップ 4	<code>switch(config)# copy running-config startup-config</code>	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、Smart Call Home をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# enable
switch(config-callhome)#
```

次の作業

任意で、テストメッセージを生成します。

Smart Call Home 設定のテスト

はじめる前に

宛先プロファイルのメッセージ レベルが 2 以下に設定されていることを確認します。



重要

宛先プロファイルのメッセージ レベルが 3 以上に設定されていると、Smart Call Home のテストが失敗します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<code>switch# configure terminal</code>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	<code>switch(config)# callhome</code>	Smart Call Home コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	<code>switch(config-callhome)# callhome send diagnostic</code>	指定された Smart Call Home メッセージを設定されたすべての宛先に送信します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	switch(config-callhome) # callhome test	設定されたすべての宛先にテストメッセージを送信します。
ステップ 5	switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を永続的に保存します。

次に、Smart Call Home をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configuration terminal
switch(config)# callhome
switch(config-callhome)# callhome send diagnostic
switch(config-callhome)# callhome test
switch(config-callhome)#
```

Smart Call Home 設定の確認

設定を確認するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

コマンド	目的
switch# show callhome	Call Home のステータスを表示します。
switch# show callhome destination-profile name	1 つまたは複数の Call Home 宛先プロファイルを表示します。
switch# show callhome pending-diff	保留中の Smart Call Home 設定と実行中の Smart Call Home 設定の違いを表示します。
switch# show callhome status	Smart Call Home ステータスを表示します。
switch# show callhome transport-email	Smart Call Home の電子メール設定を表示します。
switch# show callhome user-def-cmds	任意のアラートグループに追加された CLI コマンドを表示します。
switch# show running-config [callhome callhome-all]	Smart Call Home の実行コンフィギュレーションを表示します。
switch# show startup-config callhome	Smart Call Home のスタートアップコンフィギュレーションを表示します。

コマンド	目的
switch# show tech-support callhome	Smart Call Home のテクニカル サポート出力を表示します。

フルテキスト形式での syslog アラート通知の例

次の例では、Syslog ポート アラート グループ通知のフルテキスト形式を示します。

```
source:MDS9000
Switch Priority:7
Device Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Customer Id:Example.com
Contract Id:123
Site Id:San Jose
Server Id:WS-C6509@C@FG@07120011
Time of Event:2004-10-08T11:10:44
Message Name:SYSLOG_ALERT
Message Type:Syslog
Severity Level:2
System Name:10.76.100.177
Contact Name:User Name
Contact Email:person@example.com
Contact Phone:+1-408-555-1212
Street Address:#1234 Any Street, Any City, Any State, 12345
Event Description:2006 Oct 8 11:10:44 10.76.100.177 %PORT-5-IF_TRUNK_UP:
%$VLAN 1%$ Interface e2/5, vlan 1 is up
syslog_facility:PORT
start chassis information:
Affected Chassis:WS-C6509
Affected Chassis Serial Number:FG07120011
Affected Chassis Hardware Version:0.104
Affected Chassis Software Version:3.1(1)
Affected Chassis Part No:73-8607-01
end chassis information:
```

XML 形式の Syslog アラート通知の例

次の例では、Syslog ポート アラート グループ通知の XML を示します。

```
From: example
Sent: Wednesday, April 25, 2007 7:20 AM
To: User (user)
Subject: System Notification From Router - syslog - 2007-04-25 14:19:55
GMT+00:00
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<soap-env:Envelope xmlns:soap-env="http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope">
<soap-env:Header>
<aml-session:Session xmlns:aml-session="http://www.example.com/2004/01/aml-session"
soap-env:mustUnderstand="true" soap-env:role=
"http://www.w3.org/2003/05/soap-envelope/role/next">
<aml-session:To>http://tools.example.com/services/DDCEService</aml-session:To>
<aml-session:Path>
<aml-session:Via>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:Via>
</aml-session:Path>
<aml-session:From>http://www.example.com/appliance/uri</aml-session:From>
<aml-session:MessageId>M2:69000101:C9D9E20B</aml-session:MessageId>
</aml-session:Session>
</soap-env:Header>
<soap-env:Body>
<aml-block:Block xmlns:aml-block="http://www.example.com/2004/01/aml-block">
```

```

<aml-block:Header>
<aml-block:Type>http://www.example.com/2005/05/callhome/syslog</aml-block:Type>
<aml-block:CreationDate>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</aml-block:CreationDate>
<aml-block:Builder>
<aml-block:Name>Cat6500</aml-block:Name>
<aml-block:Version>2.0</aml-block:Version>
</aml-block:Builder>
<aml-block:BlockGroup>
<aml-block:GroupId>G3:69000101:C9F9E20C</aml-block:GroupId>
<aml-block:Number>0</aml-block:Number>
<aml-block:IsLast>>true</aml-block:IsLast>
<aml-block:IsPrimary>>true</aml-block:IsPrimary>
<aml-block:WaitForPrimary>>false</aml-block:WaitForPrimary>
</aml-block:BlockGroup>
<aml-block:Severity>2</aml-block:Severity>
</aml-block:Header>
<aml-block:Content>
<ch:Call Home xmlns:ch="http://www.example.com/2005/05/callhome" version="1.0">
<ch:EventTime>2007-04-25 14:19:55 GMT+00:00</ch:EventTime>
<ch:MessageDescription>03:29:29: %CLEAR-5-COUNTERS: Clear counter on all
interfaces by console</ch:MessageDescription>
<ch:Event>
<ch:Type>syslog</ch:Type>
<ch:SubType>
</ch:SubType>
<ch:Brand>Cisco Systems</ch:Brand>
<ch:Series>Catalyst 6500 Series Switches</ch:Series>
</ch:Event>
<ch:CustomerData>
<ch:UserData>
<ch:Email>person@example.com</ch:Email>
</ch:UserData>
<ch:ContractData>
<ch:CustomerId>12345</ch:CustomerId>
<ch:SiteId>building 1</ch:SiteId>
<ch:ContractId>abcdefg12345</ch:ContractId>
<ch:DeviceId>WS-C6509@C@69000101</ch:DeviceId>
</ch:ContractData>
<ch:SystemInfo>
<ch>Name>Router</ch>Name>
<ch>Contact>
</ch>Contact>
<ch>ContactEmail>user@example.com</ch>ContactEmail>
<ch>ContactPhoneNumber>+1-408-555-1212</ch>ContactPhoneNumber>
<ch:StreetAddress>#1234 Any Street, Any City, Any State, 12345
</ch:StreetAddress>
</ch:SystemInfo>
</ch:CustomerData>
<ch:Device>
<rme:Chassis xmlns:rme="http://www.example.com/rme/4.0">
<rme:Model>WS-C6509</rme:Model>
<rme:HardwareVersion>1.0</rme:HardwareVersion>
<rme:SerialNumber>69000101</rme:SerialNumber>
<rme:AdditionalInformation>
<rme:AD name="PartNumber" value="73-3438-03 01" />
<rme:AD name="SoftwareVersion" value="4.0(20080421:012711)" />
</rme:AdditionalInformation>
</rme:Chassis>
</ch:Device>
</ch:Call Home>
</aml-block:Content>
<aml-block:Attachments>
<aml-block:Attachment type="inline">
<aml-block:Name>show logging</aml-block:Name>
<aml-block:Data encoding="plain">
<![CDATA[Syslog logging: enabled (0 messages dropped, 0 messages
rate-limited, 0 flushes, 0 overruns, xml disabled, filtering disabled)
Console logging: level debugging, 53 messages logged, xml disabled,
filtering disabled Monitor logging: level debugging, 0 messages logged,
xml disabled,filtering disabled Buffer logging: level debugging,
53 messages logged, xml disabled, filtering disabled Exception
Logging: size (4096 bytes) Count and timestamp logging messages: disabled
Trap logging: level informational, 72 message lines logged
]]>

```

```

Log Buffer (8192 bytes):
00:00:54: curr is 0x20000
00:00:54: RP: Currently running ROMMON from F2 region
00:01:05: %SYS-5-CONFIG_I: Configured from memory by console
00:01:09: %SYS-5-RESTART: System restarted --Cisco IOS Software,
s72033_rp Software (s72033_rp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental
Version 12.2(20070421:012711) Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 15:54 by xxx
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]00:01:01: %PFREDUN-6-ACTIVE:
Initializing as ACTIVE processor for this switch00:01:01: %SYS-3-LOGGER_FLUSHED:
System was paused for 00:00:00 to ensure console debugging output.00:03:00: SP: SP:
Currently running ROMMON from F1 region00:03:07: %C6K_PLATFORM-SP-4-CONFREG_BREAK
_ENABLED: The default factory setting for config register is 0x2102.It is advisable
to retain 1 in 0x2102 as it prevents returning to ROMMON when break is issued.00:03:18:
%SYS-SP-5-RESTART: System restarted --Cisco IOS Software, s72033_sp Software
(s72033_sp-ADVENTERPRISEK9_DBG-VM), Experimental Version 12.2(20070421:012711)Copyright
(c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-07 18:00 by xxx
00:03:18: %SYS-SP-6-BOOTTIME: Time taken to reboot after reload = 339 seconds
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPTS: Power supply inserted in slot 1
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 1 turned on.
00:03:18: %OIR-SP-6-INSPTS: Power supply inserted in slot00:01:09: %SSH-5-ENABLED:
SSH 1.99 has been enabled
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSOK: power supply 2 turned on.
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTMISMATCH: power supplies rated outputs do not match.
00:03:18: %C6KPWR-SP-4-PSREDUNDANTBOTHSUPPLY: in power-redundancy mode, system is
operating on both power supplies.
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
00:01:10: %CRYPTO-6-ISAKMP_ON_OFF: ISAKMP is OFF
00:03:20: %C6KENV-SP-4-FANHIOUTPUT: Version 2 high-output fan-tray is in effect
00:03:22: %C6KPWR-SP-4-PSNOREDUNDANCY: Power supplies are not in full redundancy,
power usage exceeds lower capacity supply
00:03:26: %FABRIC-SP-5-FABRIC_MODULE_ACTIVE: The Switch Fabric Module in slot 6
became active.
00:03:28: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 6: Running Minimal Diagnostics...
00:03:50: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 6: Passed Online Diagnostics
00:03:50: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 6, interfaces are now online
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 3: Running Minimal Diagnostics...
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 7: Running Minimal Diagnostics...
00:03:51: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 9: Running Minimal Diagnostics...
00:01:51: %MFIB_CONST_RP-6-REPLICATION_MODE_CHANGE: Replication Mode Change Detected.
Current system replication mode is Ingress
00:04:01: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 3: Passed Online Diagnostics
00:04:01: %OIR-SP-6-DOWNGRADE: Fabric capable module 3 not at an appropriate hardware
revision level, and can only run in flowthrough mode
00:04:02: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 3, interfaces are now online
00:04:11: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 7: Passed Online Diagnostics
00:04:14: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 7, interfaces are now online
00:04:35: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 9: Passed Online Diagnostics
00:04:37: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 9, interfaces are now online
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
Firmware compiled 11-Apr-07 03:34 by integ Build [100]
00:00:22: %SYS-DFC4-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 17:20 by xxx
00:00:23: DFC4: Currently running ROMMON from F2 region
00:00:25: %SYS-DFC2-5-RESTART: System restarted --
Cisco IOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version 12.2
(20070421:012711)Copyright (c) 1986-2007 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 16:40 by username1
00:00:26: DFC2: Currently running ROMMON from F2 region
00:04:56: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 4: Running Minimal Diagnostics...
00:00:09: DaughterBoard (Distributed Forwarding Card 3)
Firmware compiled 11-Apr-08 03:34 by integ Build [100]
slot id is 8
00:00:31: %FLASHFS_HES-DFC8-3-BADCARD: /bootflash:: The flash card seems to
be corrupted
00:00:31: %SYS-DFC8-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6lc2 Software (c6lc2-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 17:20 by username1
00:00:31: DFC8: Currently running ROMMON from S (Gold) region

```

```
00:04:59: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 2: Running Minimal Diagnostics...
00:05:12: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 8: Running Minimal Diagnostics...
00:05:13: %DIAG-SP-6-RUN_MINIMUM: Module 1: Running Minimal Diagnostics...
00:00:24: %SYS-DFC1-5-RESTART: System restarted --
Cisco DCOS Software, c6slc Software (c6slc-SPDBG-VM), Experimental Version 4.0
(20080421:012711)Copyright (c) 1986-2008 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 26-Apr-08 16:40 by username1
00:00:25: DFC1: Currently running ROMMON from F2 region
00:05:30: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 4: Passed Online Diagnostics
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW
Replication Mode Change Detected. Current replication mode for unused asic
session 0 is Centralized
00:05:31: %SPAN-SP-6-SPAN_EGRESS_REPLICATION_MODE_CHANGE: Span Egress HW
Replication Mode Change Detected. Current replication mode for unused asic
session 1 is Centralized
00:05:31: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 4, interfaces are now online
00:06:02: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 1: Passed Online Diagnostics
00:06:03: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 1, interfaces are now online
00:06:31: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 2: Passed Online Diagnostics
00:06:33: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 2, interfaces are now online
00:04:30: %XDR-6-XDRIPCNOTIFY: Message not sent to slot 4/0 (4) because of IPC
error timeout. Disabling linecard. (Expected during linecard OIR)
00:06:59: %DIAG-SP-6-DIAG_OK: Module 8: Passed Online Diagnostics
00:06:59: %OIR-SP-6-DOWNGRADE_EARL: Module 8 DFC installed is not identical to
system PFC and will perform at current system operating mode.
00:07:06: %OIR-SP-6-INSCARD: Card inserted in slot 8, interfaces are now online
Router#]]>
</aml-block:Data>
</aml-block:Attachment>
</aml-block:Attachments>
</aml-block:Block>
</soap-env:Body>
</soap-env:Envelope>
```